

# RGP 3 4 緑園ガイドブックプロジェクト

指導者 平 眞由美

1 日時・場所 令和元年9月12日(木) 第5校時 教室

2 年・組 第4学年2組 34名

### 3 単元の構想

#### (1) 子どもの思いと教師の願い

4月、子どもたちと総合学習の意義、4年生ではまちづくりに関する学習が多く、新聞やリーフレットなどで調べた情報を知らせる学習があることを確認した。そこで、学習したことをいかしながら、探求的に取り組むことができる内容として「ガイドブック作り」を材として、単元が立ち上がった。

子どもたちは、緑園のよさや魅力をより多くの人に知ってもらいたいという願いを持っている。また、緑園の魅力として、自然の多さ、おすすめのお店、街でのイベント、歴史、安全に配慮したまちづくりなどを思い描いている。

ガイドブックという形に表現する中で、子どもたちがよさや魅力と感じていることをより深く知り、調べる学習を進める中で、まちづくりに込められた人々の思いや苦勞に気付かせたい。また、ガイドブックを作る中で、一つのものを作るために知恵を出し合い協力したり、自分の思いを人に伝えるためによりよい表現の仕方を工夫したりする力を高めていきたい。

#### (2) 学習材：ガイドブック

学習対象	<p>緑園のまちの人、お店、自然</p> <p>出版の仕事に関わる人</p> <p>まちや人、自然を大切にしている人々の思い</p> <p>地域活性化</p>
学習事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑園のまちには人々が関わり合い、工夫しながら暮らしているということ&lt;地域&gt;</li> <li>・ガイドブックには、内容を分かりやすく伝えるための表現の工夫があるということ&lt;表現&gt;</li> <li>・出版はたくさんの人々が知恵を出し合い協力して行っているということ&lt;キャリア&gt;</li> </ul>

#### (3) 単元目標

「緑園のよさや魅力をより多くの人に知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、出版の仕事に関わる方に教わりながらまちのよさや魅力を紹介するガイドブックを作る活動を通して、緑園のまちには人々が関わり合い、工夫しながら暮らしていることに気づき、自分の思いを人に伝えるためによりよい表現の仕方を工夫する力を高めるとともに一つのものを作るために知恵を出し合い協力する姿勢を育てる。

#### (4) 単元で育てたい資質・能力

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックには、内容を分かりやすく伝えるための表現の工夫があるということを知る。</li> <li>・出版にはたくさんの人々の思いが込められているということを理解する。</li> <li>・緑園のまちには人々が関わり合い、工夫しながら暮らしているということに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの人にインタビューするなどして得た情報の中から、ガイドブックにする内容を選択する。</li> <li>・読み手に合わせてガイドブックの内容、表現の仕方を考えながら、ページを作成する。</li> <li>・表現を工夫してガイドブックを改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いの実現に向けて、自分にできることを考え、友達と協力しながら粘り強く追究する。</li> <li>・まちを見る視点を広げ、よりよいガイドブックを作るために、地域の人々や出版に携わる方と積極的に関わろうとする。</li> <li>・進んで活動に取り組んだり、地域の人々とコミュニケーションをとったりしたことから、これからの自分の地域との関わりに生かしていこうとする。</li> </ul>

I 4年の総合で取り組んでいきたいことは何だろう？（総合2時間）

- 4年生の総合を通して、どのような課題を深めていけるか考える。
- 学習をいかして、取り組んでいけることを探る。

4年生の社会では、まちづくりを中心に学ぶね。国語では、新聞作りやリーフレット作りを学習するよ。緑園にはすてきなところがいっぱいあるから、それをたくさんの人に伝えたいな。横浜のガイドブックはあるけれど、緑園のまちについてのガイドブックはないよ。自分たちで調べて、いろんな人に読んでもらえるガイドブックを作りたいな。

II どんなガイドブックがよいだろう？（総合5時間）

- 緑園の魅力として、何を伝えたいか考える。
- ガイドブックを作るためにどのような手順や技能が必要か考える。

緑園には、自然がいっぱいあるよ。おすすめのお店も知らせたい。夏祭りなどのイベントもあるから、イベントのことも知らせたい。昔の緑園のことが載っている資料を見つけたから、緑園の歴史についても知ってもらいたいな。道が広くて事故が少なかったり、火事も少なかったり安全なまちであることも伝えたい。ガイドブックを作るためには、どうすればいいのかな。一ページ作ってみようとしたけれど、情報が足りないし、いい写真の撮り方もよくわからない。ガイドブックを作る手順を整理すると、調査、製作、印刷の順番になるね。まずは、分担して調査を進めよう。自然といっても、何があるのだろう。

III まちのことを知ろう（総合20時間）

- 読み手のことを考えて、企画を考え、インタビューや調査の計画を立てる。
- インタビューや調査活動を通して、まちのすてきなところや人々のまちに対する思いを知る。

ガイドブックと言っても目的によっていろいろあるね。誰に読んでもらうためのガイドブックにしよう。まちの人により詳しく魅力を知ってもらえるのか、緑園を知らない人が街に来るように作るのかで内容が変わってくるね。インタビューを通して、まちの人たちの工夫が分かったよ。気づいていなかった緑園のまちの魅力を見つけたよ。お店のおすすめポイントをもっと深く知りたいな。ガイドブックにして伝えるのだから、読んでくれる人がどんなことを知りたいのか考えて、調査を深めていきたいな。あるものや見たものを載せるだけでは、緑園のよさは伝えられないよ。インタビューで分かったまちの人の思いを結びつけて記事にしたいな。文ばかりだとパッと見てもよくわからないから、写真を付けたいな。よりよく伝わる写真はどんなのだろう。

IV まちのガイドブックを作ろう（総合20時間）

- 得た情報をもとに、分担したページを作る。
- 互いの作ったページを見合い、よりよい表現になるように工夫する。

緑園のまちのよさはたくさん見つけたけれど、そのまま書いてもよくわからない。どの情報を載せればいだろう。読んでくれる人が知りたい情報は何か。ガイドブックを作る人は、どんなことに気を付けて記事を作っているのだろう。つけ足したい情報があるから、さらに調査しよう。ページを完成させたから、お互いに読んだり、インタビューした人たちや出版に関わる人達にアドバイスをしてもらったりしよう。まちの魅力が伝わる内容になっているかな。アドバイスをもとに、取材や調査を追加したり、デザインを考えたりしてガイドブックを仕上げよう。

V ガイドブックを読んでもらおう（総合10時間）

- 自分たちで作ったガイドブックを印刷してもらい、地域の人やこのまちを訪れる人たちに読んでもらう。
- 自分たちの頑張りがまちの人の温かさに気付く。

多くの人にガイドブックを読んでもらって、緑園の良さを知ってもらいたいな。ガイドブックをおいてもらったり、印刷に協力してもらったりえできるように、交渉しよう。まちの人や印刷出版のプロの協力も得たから、感謝の気持ちを忘れずにいたい。苦手なところもあって難しかったけれど、みんなで協力して完成したのが嬉しかった。お互いにアドバイスをし合って成長することができた。緑園のまちのよさや働く人の思いが伝わってきた。これからもみんなが助け合うまちになっていけばいいな。まちの一員として、自分にできることを続けたいな。

4 小単元構想

Ⅲ まちのことを知ろう (全20時間)

(1) 小単元目標

ガイドブックを作って緑園の魅力伝えたいという思いの実現に向けて、インタビューや調査を行うことを通して、緑園のまちには人々が関わり合い、工夫しながら暮らしているということに気付くとともに、まちを見る視点を広げよりよいガイドブックを作るために、地域の人々や出版に携わる方と積極的に関わろうとする。

(2) 小単元で育てたい資質・能力

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題をもつ		・誰に読んでもらうか、ガイドブックで自分たちが伝えたいことは何かという視点で話し合い、方向性を決めるとともに、今後の調査活動の見通しをもつ。 ＜対話、課題の把握＞	
追究する		・ガイドブックを集め、載っている情報を整理することで、必要な情報について分析する。 ＜情報の収集、整理・分析＞ ・ガイドブックに載せる内容について、インタビューや調査を行って情報を集める。 ＜情報の収集＞	・緑園のまちのよさが伝わるようなガイドブックにするためにインタビューや調査をしようとする思いを持つ。 ＜思い・願い＞
振り返る	・緑園のまちには人々が関わり合い、工夫しながら暮らしているということに気付く。 ＜気付き＞	・ガイドブックのページを作成するために、集めた情報について見直し、ガイドブックのページを作成する活動の見通しをもつ。 ＜対話、課題の把握＞	

(3) 小単元学習活動の流れ

学習課題	学習活動	期待する変容	○手立て ●関連する教科等
どのように情報を集めたらよいだろう？	7時間		○手立て ●関連する教科等
ガイドブックを分析し、載っている情報について整理したり、印刷会社の方からお話を伺ったりして、インタビューなどの調査活動の見通しをもつ。			○掲示物等でこれまでの活動を振り返ることができるようにする。 ○作成するガイドブックについてのイメージを明らかにするために、印刷会社の方から、出版についてのお話を伺う。 ○目的に合ったガイドブックになるようにコンセプトを確認しながら、話し合いを進める。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックには写真、文章、地図などが載っているよ。</li> <li>・誰に読んでもらうかによって、何を詳しく伝えるか変わってくるね。ガイドブックを作ることで私たちはどんなまちにしていきたいのだろう。まちの人はどんなまちにしたいと思っているのかな。</li> <li>・インタビューをして、働く人の思いを伝えてはどうか。おすすめの商品も紹介したいな。</li> <li>・インタビューするためには、どのような手順が必要かな。インタビューの前に、調べられることもありそうだね。</li> </ul>			●「調べたことを整理して書こう」(国語) 新聞の特徴と作り方を知り、記事にすることを決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書く学習をいかして、ガイドブック作りへとつなげる。
まちのよさや魅力を調べよう。	13時間		●「安全な暮らしとまちづくり」(社会)
企画を考え、インタビューなどの調査活動をして情報を集める。			まちには、くらしを支えている方々がいるという学習をいかして、まちを支えてくださっている方々に着目して学習を進める。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑園東小の人にも、アンケートを取って、緑園のまちのよさをもっと発見したいな。</li> <li>・実際にお店に行くと、今まで気づいていなかった良さや工夫が分かったよ。インタビューで、働く人たちの苦勞も分かったな。</li> <li>・緑園ができた時の話を聞いて、まちに込められた思いをすることができたよ。新しいまちにも歴史はあるんだね。</li> </ul>			○資料などで調べるだけでなく、実際にまちの人に会い、お話を伺う機会を設ける。

5 本時の学習 (5 / 20 時)

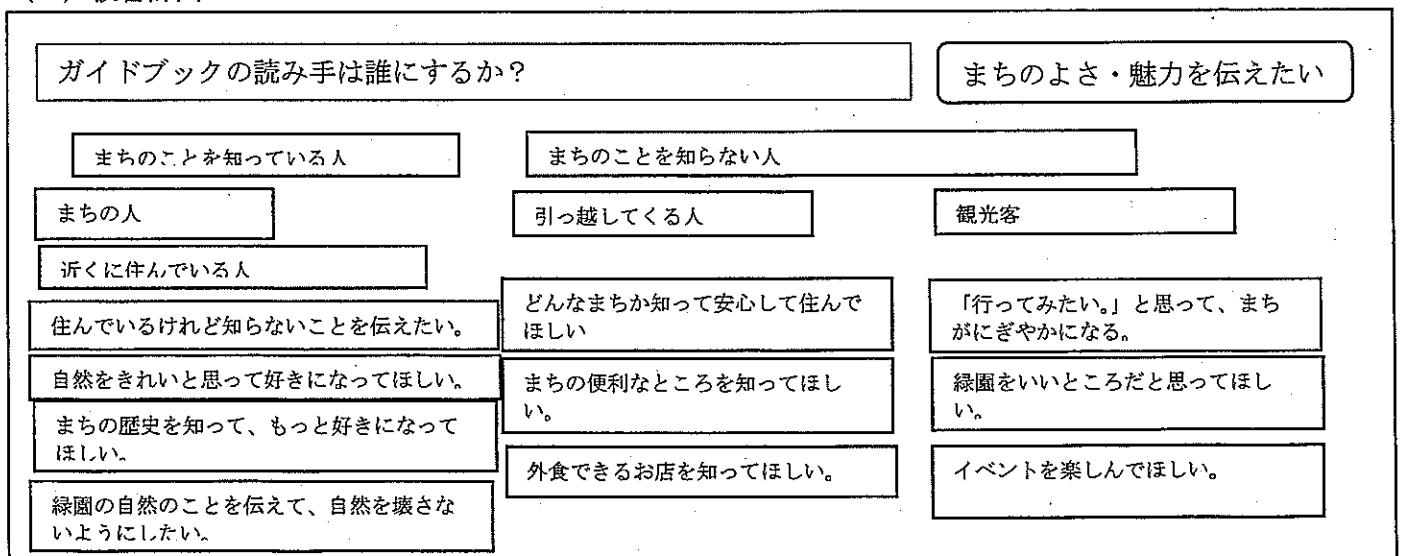
(1) 本時目標

読み手を誰に設定するか話し合うことを通して、相手意識を持って活動する大切さに気づき、自分たちがガイドブック作りを通して伝えたい情報は何かということを確認するとともに、今後の活動の見通しをもつ。

(2) 本時展開

予想される子どもの活動と反応	★評価規準 ☆手立て
<p style="text-align: center;">ガイドブックの読み手は誰にするか？</p> <p>①読み手を誰にするか意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちを知らない人に、緑園がどんなところか知ってほしい。</li> <li>・観光客におすすめのスポットやお店を伝えたい。</li> <li>・まちの人でも、まだまだ知らないことがあるので、もっと深く知ってもらいたい。</li> <li>・これから引っ越してくる人は、緑園のまちを知らないから伝えたい。</li> </ul> <p>②自分たちの活動の目的と伝えたい情報を照らし合わせながら、読み手を誰にするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちのよさや魅力を伝えて、たくさんのひとに緑園に来てもらいたい。</li> <li>・緑園は人口が減っているから増えるようにしたい。</li> <li>・まちに住んでいる人が、知らなかったまちのことを知ると、もっとまちのことが好きになると思う。</li> <li>・まちのお祭りのことを住んでいるみんなが知って参加したら、もっとにぎやかになっていいまちになると思う。</li> <li>・私たちも、まちのことをまだまだ知らなかったから、同じように知らない人たちに伝えたい。緑園の歴史も知ってほしい。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ガイドブックを作ることで、知らなかった緑園のまちの魅力を知り、まちのことを誇りに思って、もっと好きになるようにしよう。</p> <p>③次時以降の取り組みの見通しをもち、振り返りをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手に合わせた企画を考える。</li> <li>・企画に応じて、取材の内容を決める。</li> <li>・取材の方法を考え、取材相手へのお願いを実行していく。</li> </ul>	<p>★評価規準 ☆手立て</p> <p>☆これまでの活動をまとめ、掲示しておく。</p> <p>☆読み手の候補を挙げ、伝える内容を述べさせる。</p> <p>☆板書を行う際、視覚的に捉えるために配置を変えられるよう短冊に意見を書いて整理する。</p> <p>☆読み手として誰をターゲットにするのがふさわしいのか、自分たちの活動の目的と照らし合わせて考えられるように助言する。</p> <p>★相手意識を持って活動する大切さに気付く。【発言】</p> <p>★伝えたい情報は何かを明確にしている。【発言・学習カード】</p> <p>☆ガイドブック作りはまちの魅力を伝えるための手段であり、まちの魅力を誰に伝えて、その結果どうしていきたいのかが大切であることに気付かせる。</p> <p>★活動の見通しをもっている。【発言】</p>

(3) 板書計画



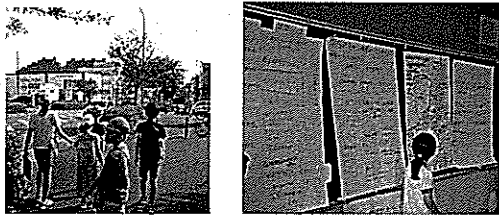
① 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立緑園西小学校

RGP34 緑園ガイドブックプロジェクト

○緑園の魅力を調べよう！

街に出て、緑園の魅力は何か考えるために取材を行い、自分たちの考える街の魅力は何か話し合いました。



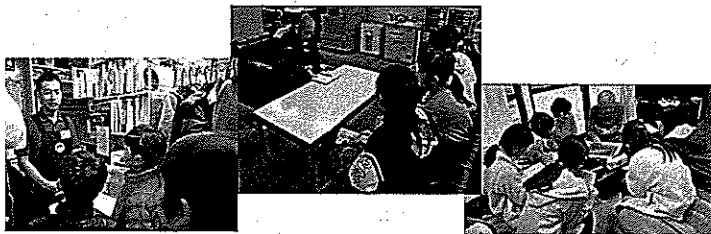
○ガイドブック作りについてプロに学ぼう！

本ができるまでの過程や企画のポイント、紙面作りについてプロから話を伺いました。



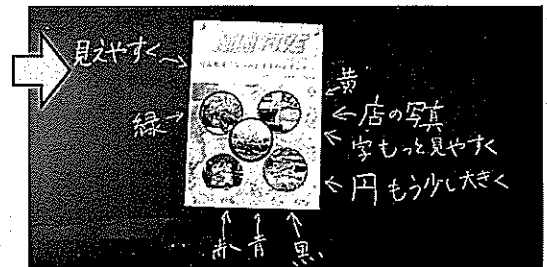
○ターゲット、企画を考え、取材しよう！

プロのアドバイスをもとに、ガイドブックのターゲットや企画について話し合い、企画に合わせて、再度取材を行いました。取材に当たっては、取材依頼の手紙でアポイントを取りました。そして、各グループに分かれ、地域のお店や施設、住民の方への取材を行いました。

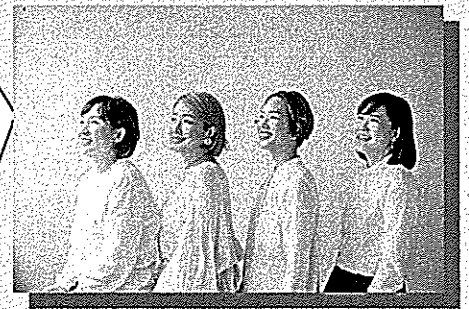


○ガイドブックを作ろう！

取材した内容をもとに、タブレット端末を用いて、紙面を作成していきました。緑園の5つの魅力を詰め込んだガイドブックなので、「緑園FIVE」というタイトルにしました。



今回このような連携が実現したのは、4年2組の平先生が『はらぺこパブリッシング』で制作担当する情報誌の編集部取材に来てくださったのが始まりです。「本作りとは？工程は？」など熱心に質問しメモする先生の姿に心打たれ、私達でよければ協力させていただきたい、とお話したのが事の発端でした。本の制作工程は、紐解くと多岐に渡ります。ページ構成、取材・撮影、原稿書き、デザイン、校正、印刷など。そうした数あるステップを生徒さん達が先生と共に1つずつクリアしていく姿は眩く、私達が初心を思い返すいい機会にもなりました。「打てば響く」という言葉通り、要所でのアドバイスを柔軟に受け入れ、即反映する姿勢には学ぶことも多く、発見と驚きの連続でした。生徒さん達にはこの経験を経て「本作りって楽しい」って思ってもらえたら、そして本離れが進む現代に、本を読むきっかけになればと強く願います。また本作りには多くの人に関わり、そのなかに「編集」という職業があることも、心の片隅に留めてもらえたら嬉しいです。



はらぺこパブリッシング  
代表・編集者 田中恵子



ブログやSNSなどの普及で、誰もが簡単に情報発信できる時代になり、情報発信者としての「情報リテラシー」が求められています。今どんな情報が必要とされているのかを考え、事実を取材し、読み手に理解しやすいように編集し、興味が湧くようなデザインの工夫をする。ひとりよがりな情報発信ではなく、情報の受け手のことを想像し続けてがんばったこの1年の経験で、緑園西小4年2組のみんなは大きく成長したのではないかと思います。ひとに何かを伝えるということは大人数になってもなかなかうまくいかない、本当に難しいことです。4年2組のみんなのこれからの人生に、この経験が生きてくれればよいと思います。

株式会社協進印刷  
代表取締役社長 江森克治

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>①自分たちで街を歩いたり、写真撮影をしたりしてガイドブックを作る難しさに気付いてから、出版に関わるプロの話を伺った。</p> <p>②取材を行うためのアポイントやお礼なども含めて学習した。</p> <p>③国語科や社会科の学習と関連付けて学習を進めた。</p> <p>④タブレットを用いて、写真撮影、記事作りを行った。</p> <p>⑤自分たちの街を題材に様々な面から良さを考えることで、</p> <p>⑥学級全体で話し合うだけではなく、グループで取材や記事作りを行った。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦勞した点</p> <p>①取材のための日程調整や人員の確保。</p> <p>②印刷、配付に協力してくれる企業、団体との交渉</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>①プロから話を聞き、情報を伝える人々の工夫や苦勞をより深く理解できた。</p> <p>②取材の申し込みから体験することで、取材の技能だけではなく人と関わるための技能を高めることができた。</p> <p>③他教科と横断的に学習したことで相乗効果が起き、学習に対して、より意欲的に取り組むことができ、街への関心や情報処理の技能がより高まった。</p> <p>④タブレットを活用して活動したことで、タブレットの操作にも慣れ親しみ、情報活用の力を高めることができた。</p> <p>⑤普段の生活では知ることのできないお店の裏側を見せていただいたり、今まで知らなかった街の歴史について古くから住んでいる地域の人に話を伺ったりすることで、知らなかった街の良さに気づき、街を誇りに思い、街の人との関わりを大切にしたいという心情が育まれた。</p> <p>⑥クラス全体、グループと様々な集団で活動することで、協働して一つのものを作る力が育まれた。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>①学校外の企業と協力して教育活動を行うことの意義をより強く感じた。 また、協力を得るための手順などについて理解が深まった。</p> <p>②街の良さを伝えるための取り組みの重要性を認識した。子どもたちが自分たちの街をより好きになり、地域の一員としてまちづくりに参画していく意欲を育てるために学校教育が重要な役割を果たすことを再認識した。</p> <p>③単年度の活動だけではなく、継続して学校全体の取り組みを系統立てて見通していく必要性を感じた。それが外部との連携にもつながることが分かった。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>①外部とのうまく連携することが教育活動をより豊かにするが、子どもの思考と離れては有効ではない。教師は、どのような手立てが有効か考え、先を見通し、どのような機関とどのように連携するのか研究を深める必要がある。</p>